

赤字：R 6 年度に新規追加した指標

青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性・妥当性・透明性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
基本戦略3 ネイチャー ポジティブ 経済の実現	状態目標3-1 生物多様性の 保全に資する ESG投融資を 推進し、生物 多様性の保全 に資する施策 に対して適切 に資源が配分 されている	生物多様性の保全に資するESG投融資を推進している	ESG投融資	投資機関	－	NBSAP指標	生物多様性に関連する投融資原則への国内の署名機関数	PRIと21世紀金融行動原則の署名機関数をトラック。 ※PRIは「ESG」とひとくくりになっており、生物多様性については特段求めているが、natureに関心は高くセミナー開催等していたりすることもあり、意識の高いグローバルな金融機関のトラッキングには良いかと思われる。21世紀金融行動原則については生物多様性への配慮を明確に求めているため、補助指標として加えた。	△	○	○	○	○	C	PRIと21世紀金融行動原則の署名機関数であるためネイチャー以外も含む
		生物多様性の保全に資するESG投融資を推進している	ESG投融資	投資額	－	新規（R5年度追加）	サステナブル投資残高	日本サステナブル投資フォーラム（JSIF）公表資料より引用	△	○	○	○	○	C	回答企業に偏りあり、国家戦略指標としては採用されなかった経緯があるため、目標への整合性を△とした
状態目標3-2 事業活動による生物多様性への負の影響の低減、正の影響の拡大、企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷	－	－	NBSAP指標、JBO3指標	国内の事業活動を通した日本全体のエコロジカルフットプリント	環境拡張型多地域間産業連関分析を用いて、木材など再生可能な資源利用による世界の土地利用に対するエコロジカル・フットプリントを算出する。（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷	－	－	NBSAP指標	国内の事業活動を通した日本全体のマテリアルフットプリント	環境拡張型多地域間産業連関分析を用いて、鉱物など非再生型の資源利用による世界の土地利用に対するマテリアル・フットプリントを算出する。（毎年）	○	○	○	×	○	B	
	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷	－	－	新規（有識者ヒア）	事業活動による森林伐採と農地転用の面積	推進費業務成果より引用	○	○	×	×	×	B	
		事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷	－	－	新規（有識者ヒア）	事業活動による生物種の絶滅リスク指標（EINES）	CO2排出量や水消費といったカテゴリごとの生物多様性影響を指数化し、指標として算出する。気候変動による種分布面積の減少を予測したうえ、「種数-面積関係(SAR)」を用いて算出	○	○	×	×	×	B	
	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	事業活動による生物多様性への負の影響の低減	環境負荷	－	－	新規（有識者ヒア）	事業活動による種の潜在的消失割合（PDF）	農作物を消費すると、その生産の過程で水が消費されることになるが、その消費単位あたり（1m3など）の生物多様性影響を示すもの	○	○	×	×	×	B	
		事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	技術・サービス	－	－	NBSAP指標	環境産業（自然環境保全）の市場規模	環境産業のうち、特に自然環境保全分野の市場規模を把握する。「自然環境保全」「廃棄物処理・資源有効利用」「地球温暖化対策」「環境汚染防止」の4分野の中から「自然環境保全」の金額を抜粋する。（毎年） （参考）概要版 P5 https://www.env.go.jp/content/000046487.pdf	○	○	○	○	○	A	自然環境保全分野は「緑化・水辺再生」、「水資源利用」、「持続可能な農林水産業」、「環境保護意識向上」で分けられる
	事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	技術・サービス	－	－	NBSAP指標	生物多様性に配慮した製品・サービスを提供している企業の割合	国内に本社を置く大企業を対象としたアンケートにより把握する（随時） ⇒経団連自然保護協議会が実施している経団連企業会員を対象としたアンケート結果より把握する（毎年）	△	○	○	×	○	C	調査対象が経団連企業会員に対象が限定されるとともに、有効回答数が2割弱となっていることに留意
		事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	保全への関与	－	－	新規	自然共生サイトのうち、企業が申請者であるサイトの数	認定サイト一覧より、申請者が企業であるサイト数を集計（随時）	△	○	○	○	○	C	企業が保全してきた実際のサイト数・面積と、認定されているサイト数等との間には開きがあるため
	事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	事業活動による生物多様性への正の貢献の拡大	保全への関与	－	－	JBO3指標	E2-2-3 棚田オーナー制度の協定件数	農林水産省農村振興局の「中山間地域等直接支払交付金の実施状況」資料から引用	△	○	○	○	○	C	棚田オーナー制度が必ずしも生物多様性の正の貢献とは言えないため。
		企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	経営・戦略	－	－	NBSAP指標	経営方針・マネジメント等に関する文書に生物多様性を記載している企業割合	国内に本社を置く大企業を対象としたアンケートにより把握する（随時） ⇒経団連自然保護協議会が実施している経団連企業会員を対象としたアンケート結果より把握する（毎年）	△	○	○	○	○	C	調査対象が経団連企業会員に対象が限定されるとともに、有効回答数が2割弱となっていることに留意
	企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	目標設定	－	－	NBSAP指標	生物多様性への取組の定量目標を設定している企業割合	国内に本社を置く大企業を対象としたアンケートにより把握する（随時） ⇒経団連自然保護協議会が実施している経団連企業会員を対象としたアンケート結果より把握する（毎年）	△	○	○	○	○	C	調査対象が経団連企業会員に対象が限定されるとともに、有効回答数が2割弱となっていることに留意
		企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	情報開示	－	－	GBFヘッドライン指標	15.1 Number of companies reporting on disclosures of risks, dependencies and impacts biodiversity* リスク、依存、および生物多様性への影響の開示について報告している企業の数*		○	○	○	×	○	B	
	企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	企業や金融機関の生物多様性関連リスクの低減、及び持続可能な生産形態を確保するための行動の推進が着実に進んでいる	情報開示	－	－	NBSAP指標	生物多様性に関する情報開示を行っている企業割合（数）	国内に本社を置く大企業を対象としたアンケートにより把握する（随時） ⇒経団連自然保護協議会が実施している経団連企業会員を対象としたアンケート結果より把握する（毎年）	△	○	○	○	○	C	調査対象が経団連企業会員に対象が限定されるとともに、有効回答数が2割弱となっていることに留意
状態目標3-3 持続可能な農 林水産業が拡 大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	JBO指標	B20-3 農業・化学肥料の生産量	農林水産省「農業の生産・出荷量の推移」、日本肥料アンモニア協会「単肥及び複合肥料需給実績」より把握（毎年）	△	○	○	○	○	C	生産量より使用量が目標に合った指標であるためC指標
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	NBSAP指標（行動目標）	化学農業使用量（リスク換算）と化学肥料使用量	農林水産省「みどりの食料システム戦略」KPI指標より実績値を把握。	○	○	○	○	○	A	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	JBO指標	B10-2 殺虫剤・殺菌剤・除草剤の国内出荷量の推移	農林水産省「農業の生産・出荷量の推移」より把握（毎年）	△	○	○	○	○	C	除草剤は、工場や店舗の敷地、グラウンドを含め広く使われている可能性があるため、C指標として分類。（指標区分は適宜変更）
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	JBO指標	B25-8 地下水環境基準（硝酸、亜硝酸）の達成状況	環境省「地下水質測定結果」より把握（毎年）	○	○	○	○	○	A	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	新規（R5年度追加）	有機ほ場の面積	国内における有機JASほ場の面積を農林水産省資料より把握（毎年）	○	○	○	○	○	A	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	新規	国内の有機栽培農産物格付量の推移	農林水産省HP「有機農産物等の格付実績」より国内で格付された有機農産物の量の推移を把握	○	○	○	○	○	A	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	農業	－	新規	高温耐性品種米の作付面積	農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」や農林水産省の資料より「高温耐性品種の作付状況」を引用	△	○	○	○	○	C	気候変動に対する適応に特化したものであるため、C指標。（指標区分は適宜変更）
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	林業	－	GBFヘッドライン指標	10.2 Progress towards sustainable forest management 持続可能な森林管理への進展		○	○	○	×	○	B	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	林業	－	JBO指標	E3-5-1 木材自給率の推移	政府統計「木材需給表」より引用	○	○	○	○	○	A	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	林業	－	新規	我が国におけるFSC及びSGECの認証面積の推移	森林・林業白書より引用	○	○	○	○	○	A	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	林業	－	NBSAP指標	森林施策の適切な実施に関する計画のある森林経営計画等の面積の割合	私有人工林のうち、森林経営計画の作成や経営管理権の設定等がなされた森林の割合を算出。	○	○	○	×	○	B	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	GBFヘッドライン指標	5.1 Proportion of fish stocks within biologically sustainable levels 生物学的に持続可能な水準にある魚類資源の割合		○	○	○	×	○	B	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	NBSAP指標	漁獲量	漁業・養殖業生産統計年報を基に、我が国の海面及び内水面漁業生産量から、藻類及び海産は乳類を除いた数値を集計（毎年）	△	○	○	○	○	C	漁獲量のみで持続可能性を評価するのは適切性に欠けるため、目標への整合性は△とした
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	NBSAP指標	漁獲量のうちTAC魚種の占める割合	漁業・養殖業生産統計年報における総漁業生産量から遠洋漁業で漁獲される魚類、国際的な枠組みで管理される魚類（かつお・まぐろ・かじき類）、さけ・ます類、貝類、藻類、うに類、海産ほ乳類を除いた数値を集計（毎年）	○	○	○	○	○	A	
	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	新規（R5年度追加）	MSC認証漁業者数	認証運営団体への聞き取り	○	○	○	○	○	A	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	新規（R5年度追加）	ASC認証経営体数、認証量	ASC HPより引用	○	○	○	○	○	A	

赤字：R 6 年度に新規追加した指標
青字：R5年度に新規追加した指標

基本戦略	状態目標/行動目標	目標の要素	指標区分			指標の属性	指標名称	把握方法・頻度	指標の選定基準						
			大区分	小区分	細区分				目標への整合性	定量性・妥当性・透明性	指標の地理的スケール	継続性（過去）	継続性（将来）	判定	評価に関する備考
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	新規（有識者ヒア）	MEL認証経営体数	日本水産資源保護協会HPより認証状況を引用	○	○	○	○	○	A	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	JB03指標	B30-1 我が国周辺水域の漁業資源評価	国立研究開発法人水産研究・教育機構「我が国周辺水産資源に関する評価結果」からの資源量（R5年度はスルメイカ、ブリ、ホッケ、ソウハチ、マガレイ、サワラ、マルアジ、ムロアジ類が公表）	○	○	○	○	○	A	
		持続可能な農林水産業が拡大している	持続可能な農林水産業	水産業	－	新規（有識者ヒア）	水産業者が取得したJブルークレジット®の認証量	Jブルークレジット®認証・発行状況から水産業者が取得した認証量を集計（面積データなし）	△	○	○	○	○	C	漁業資源の回復に寄与する藻場再生の取組を評価するための指標として活用。ただし、Jブルークレジットは炭素固定に重点をおいているためC評価とした。